厳しさ増す小郡市財政　決算審査特別委員会で4日間の集中審査

実質単年度収支は５年連続赤字!!

議員全員で構成する決算審査特別委員会は、平成30年度の一般会計、特別会計の審査を９月５日から４日間行いました。歳出全般にわたり質疑があり、予算執行の状況について審査しました。その後委員間討議を経て採決を行った結果、歳入歳出決算認定８件について、全て全員賛成で認定されました。

そのうえで２点の審査意見を市長に提出し、その他４点について対応を求めました。

委員会として対応を求めるもの

職員派遣研修の環流について

県外の専門機関への職員派遣研修は人数が限られています。費用対効果を最大限発揮するために、その成果を多くの職員に伝え共有することを求めます。

職員の時間外勤務縮減について

事務量の増大に伴い時間外勤務は毎年増え続け、病気休暇の職員も増えています。構造的な問題も含め、実態把握が不十分です。早急に事業を精選し時間外勤務縮減を求めます。

補正予算未執行の問題点について

年度途中、補正により予算措置されるものは、緊急性があるために議会で認定したものです。本年度、補正予算に計上し執行されていない事業がありました。本来、未執行は想定されていません。したがって補正予算の趣旨による予算執行となるよう特に注意を要するとともに、丁寧な報告を求めます。

施設の維持管理の評価について

施策の効果では施設の維持管理はできていると記載されていたが、市民利用が多い施設の電球が長期にわたり交換されていないことが明らかになりました。限られた修繕費予算ですが、市民サービスに影響がある場合は、別途予算措置を求めます。

家計に例えると…

実質単年度収支
約５億4,600万円赤字

実質単年度収支とは、純粋に今年の所得（収入）と出費（支出）だけの差額です。

経常収支比率
98.6％

経常収支比率とは、所得に対して普通に生活していく上で必要なお金（家賃・光熱費・教育費・医療費など）がどれくらいかかっているかを示す比率です。この比率が高いと自由に使えるお金が少ないので大きい買い物が難しくなります。

行財政運営は依然として厳しい状況にあります。

今後、財政健全化に向け多くの事業見直しが必要になってきます。議会への正確な情報提供を求め、財政再建に向けて市と一緒に取り組んでまいります。

「決算審査特別委員会意見書」

①適正な財政と行政運営について

特に厳しい財政状況の中、限られた財源・人材でより効果的な行政サービスを行う必要があるため、一層厳密な事務事業の評価を行い、事業の精選に努めること。

また、最小の経費で最大の効果を挙げるよう努めること。

②財政状況の共有について

財政の健全化に向けては、市・議会・市民の情報共有及び協力が欠かせないことから、客観的で正確な情報の開示を行い、説明責任を果たすこと。